

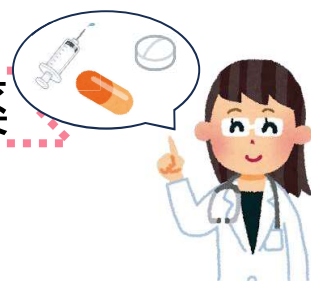


膠原病通信第13号

2025年 8月 文責:横山 幸奈



膠原病治療で使われるお薬



～ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK阻害薬～

膠原病は、免疫の働きが必要以上に強くなり、自分の体の組織や臓器を攻撃してしまう病気の総称です。炎症が関節、皮膚、血管、臓器など全身に起こり、放置すると臓器の障害が進行する場合があります。代表的な膠原病には、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、成人スティル病などがあります。これらはすべて自己炎症・免疫の異常が関与していますが、疾患や個人によって症状や障害される臓器、経過は多彩で、治療法もそれぞれ異なります。

突然このような病気と診断されると、「一生付き合うのか」「普通の生活が送れるのか」と不安を感じる方が多いと思います。しかし近年、治療薬や管理方法は大きく進歩し、膠原病患者さんの寿命は昔に比べて格段に延びています。適切な治療と生活管理を続けることで、多くの方が長く安定した生活を送ることが可能になっています。

治療の目的はいずれの病気も共通して、過剰な免疫の働きを抑え、炎症を鎮め、臓器を守ることです。そのために使われるお薬は、大きく分けてグルココルチコイド(ステロイド)、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK阻害薬の四種類があります。それぞれの特徴と注意点を紹介します。

グルココルチコイド

(ステロイド、副腎皮質ホルモン) について

炎症を素早く強力に抑える作用があります。病気の勢いが強いときには多めの量から開始し、効果に合わせて少しずつ減量します。使い始めの副作用には、感染症、糖尿病、体重増加やむくみ、胃潰瘍、不眠や気分の変化などがあります。長く使うと、骨粗鬆症、白内障や緑内障、脂質異常症、筋力低下、皮膚の薄化、満月様顔貌などが起こります。これらを防ぐために、必要に応じて肺炎・骨粗鬆症・胃潰瘍の予防薬と一緒に処方されます。食事や運動習慣の見直しも大切です。また、急に服用を中止してしまうと、再燃や副腎不全（副腎皮質ホルモンの不足による血圧低下や意識障害など）という命に関わる状態を引き起こす危険があるため、必ず医師の指示で段階的に減量することが重要です。



免疫抑制薬・調整薬について

免疫細胞の働きを抑えて炎症や臓器障害を防ぎます。加えて使うことでグルココルチコイドを早く減らすことができ、先ほど述べた害を減らす効果もあります。副作用としては、感染症、肝機能障害、骨髄抑制（白血球減少や貧血、血小板減少）などがあり、薬によっては口内炎や胃腸障害も見られます。





免疫反応に関わる特定の分子や細胞をピンポイントで狙う薬です。従来の薬で効果が不十分な場合などに使われ、こちらもグルココルチコイドを減らす効果が期待されます。多くは点滴や皮下注射で投与されます。副作用としては、同様に感染症があり、とくに結核やB型肝炎の再活性化には注意が必要です。投与前に感染症の有無を確認する検査を行い、投与中も発症に注意します。

JAK阻害薬について

近年、関節リウマチを中心に使われるようになった新しいタイプの内服薬です。JAK（ヤヌスキナーゼ）は免疫反応を引き起こす信号を伝える酵素で、その働きを抑えることで炎症を鎮めます。代表的な副作用には、带状疱疹を含む感染症、血栓症、悪性腫瘍などがあります。特に日本人は带状疱疹のリスクが高いと言われており、ワクチン接種も重要です。



安全に治療を続けるために

これらの薬はいずれも、適切に使えば膠原病の進行を防ぎ、生活の質を守るための重要な治療です。副作用やリスクはゼロではありませんが、正しい使い方をすれば最小限に抑えることができ、万一副作用が起きても早期に対応すれば大きな害は避けられます。病気が安定してくれば薬の量を減らすことも可能です。大切なのは、自己判断で中止や減量をせず、医師と相談しながら安全に薬を使うことです。

定期的な診察と検査を必ず続け、日常生活で発熱、咳、息切れ、皮疹、出血など気になる症状があれば、早めに医療機関へ相談してください。ワクチン接種の時期や種類についても、主治医と相談しましょう。近年は、患者さんごとの病状や生活背景に合わせたオーダーメイド治療が進んでいます。医療者と協力しながら、安全で効果的な治療を続けていきましょう。

ごあいさつ

膠原病・リウマチ内科
医師 横山 幸奈(よこやま ゆきな)



私は、愛知県の大同病院で勤務しており、2025年4月からの半年間、勉強のために大阪公立大学病院でお世話になっています。日々の診療や勉強を通して、膠原病についての知識を深めながら、皆さまのお役に立てるよう努めています。今回の膠原病通信が、病気や治療についての不安を少しでもやわらげ、治療について理解を深めていただく助けになればうれしいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

大阪公立大学医学部附属病院 膠原病・リウマチ内科外来

TEL ☎ :06-(6645)-3301

初診受付時間: 9:00~10:00 診察時間: 9:00~15:30



外来担当表



月	火	水	木	金
渡部 龍	山田 真介	橋本 求	渡部 龍	橋本 求
山田 真介	藤田 雄也	勝島 将夫	勝島 将夫	藤田 雄也